

## 平成30年度第1回文化芸術に関する意見交換会 会議概要

1 日時 平成31年3月26日(火) 10時～11時40分

2 会場 ときわ会館 5階 中ホール

3 出席者

<委員> (50音順 敬称略)

あらい 太朗／五十嵐 健一／井藤 仁／石上 城行／大沢 英子／久米 尚子／近藤 一幸／佐復 恵治／茅野 憲一／長井 武志／中澤 政人／宮内 則幸／山田 登美男

<事務局>

蓬田スポーツ文化局長／大西文化部長／杉本国際芸術祭開催準備室長／川田岩槻人形博物館開設準備室長／須田参事兼文化振興課長／鈴木課長補佐兼係長／小野瀬係長／柳沢主査／大堀主査／飯島主事／小坂主事／

4 欠席者 (敬称略)

森口 達治

5 テーマ

(1) さいたま市文化芸術都市創造計画平成29年度施策集について

(2) 文化芸術の創造拠点の設置について

公開又は非公開の別 公開

6 傍聴人の数 1人

7 会議

(1) 開会

(2) スポーツ文化局長挨拶

(3) 新規委員紹介

(4) 事務局紹介

(5) 報告

さいたま国際芸術祭2020開催準備室について

(6) 議事概要

委員長	次第5 報告 さいたま国際芸術祭2020開催準備室について説明をお願いしたい。
事務局	<事務局より説明> ・資料1に基づき説明
委員長	説明が終わった。ただいまの事務局からの説明に対する質問、

	意見等はあるか。
委員	おおよその予算はいくらか。
事務局	準備も含めて5億8000万と少々である。
委員	その予算で大丈夫なのか。
事務局	正直に申し上げると厳しい。
委員	どのように対応するのか。
事務局	やりくりする。実行委員会にも様々な方が入るため、こうした方々との連携も検討している。
委員	どこでやりくりしているのか。どの部分を削減しているか。
事務局	まずは会期の縮小で人件費の部分が削れている。前回のトリエンナーレでは、会場が散在していたが、今回は大宮区役所や図書館で行い、集約型に持っていくことでコストダウンする。これら2つが大きな要因である。
委員	PRをものすごく考えて欲しいと個人的には考えている。前回のトリエンナーレを知らない市民は沢山いると思うので、もったいない。成功、失敗以前に誰も知らないというのは意味がない。その配分を、今後のことだとは思いますが、上手く行って欲しい。
委員長	具体的なアイデアがあれば挙げて欲しい。
委員	前回は意見が出たが、SNS等を上手く発信して、インスタやツイッター等色々な手段で、何をやっているのか、気軽に撮って捨ってもらうことが肝心である。また、上記のメディアは、企業が一番注目している。企業から食いついてくるような工夫は必要なのではないか。

委員長	他に意見はあるか。
委員	今回のトリエンナーレについて、前回と名前が変わっただけではなくで、具体的に何か違いはあるか。
事務局	先程答えたとおり、コストダウンの経緯の中で、会場を集約したことが挙げられる。当然、コンセプトとしては「共に作る、共に参加する」という市民参加型の国際芸術祭であり、この点は他都市との差別化の中で、一貫したコンセプトである。内容については前回と変わるところはないが、逆にこの点は継続性を持って、これはさいたま市の国際芸術祭であると引き続き見せることが重要であると考えている。その中でも今言ったような、市民がこぞって参加をしているイメージの部分については前回に比べてかなり注力しているということは言えると考えている。
委員長	よろしいか。
委員	前回のトリエンナーレでは、周囲の人を誘ったが、内容が難しい、何だかわからないという声があった。芸術に詳しい人は理解できるが、一般の人には難しすぎるのではと思う。このことについて対応策はあるか。
事務局	文化芸術、とりわけ現代アートは中々難解であるという意見はある。それも踏まえて、前回に比べるとアートプロジェクトの中に、カテゴリーとしてコミュニケーションプロジェクトを設けている。要するに作家の方と市民の方、一般の方とのコミュニケーションを重視したものをなるべく取り入れるようにしている。文化芸術は作品に目が行きがちだが、作家や市民が、作品を作るにあたってどのような感情の動きがあったのか、何を表現したいのか等を知ることが文化芸術を理解する第一歩だと考えており、その部分が理解出来る形にしたいと思う。
委員	場所によっては作者が説明をしておりよかったが、誰もいなくてただ作品だけあるところもあった。難解な作品が多かったので、何か説明があると良い。

委員長	他にあるか。
委員	<p>周囲に「トリエンナーレとは何か」と聞かれるが、自分達も正解が言い切れなくて非常に困った。とにかく会場に足を運んでもらえるように、呼び込みについては庶民的に、草の根運動のように、泥臭くても良いので、積極的に行って欲しい。芸術祭に行けば、何か発見があるかもしれないというように市民をときめかせて欲しい。</p> <p>市民が何を求めているのかを考えることが大切である。また、何かを求めているから来てくれているので、その期待を外さないような努力が必要である。</p>
委員	今意見していることはきちんと反映されるのか。
事務局	頂いた意見は反映している。
委員	今までの会議の意見がどこに反映されているのかわかると我々も報われる。また、芸術祭における事務局からの一押しは何か。
事務局	<p>国際芸術祭を起爆剤として、皆さんに大宮というエリアをよく知ってもらいたいという想いが個人としてはある。また、芸術祭に関しては、閑散としているという話があったが、展覧会は月曜から日曜までずっと混んでいるということはない。ただ、大宮という人がくる場所でコンスタントに企画するなかで、大宮区役所、大宮図書館は大宮駅至近であり、近くに飲食店が多く営業している。町の活性化との兼ね合いもあるが、ナイトミュージアムを開きたいと思う。あえて朝からではなく昼から開場し、ランチタイムに来場出来るようにすることや、夜、会社帰りにサラリーマンが芸術祭の後一杯飲みに行けるようにする等、連携を図りたい。</p>
委員	市役所はこのようなイベントが面倒であり、我々との温度差があると思っていた。芸術は喜怒哀楽であり、心が動かないと成就しないと思っている。つまり、裏方の人の心が動かなければ、芸術祭を開催したとしても絶対成功しない。

	<p>アートを見て、わからないと思うことも心が動いているということである。わかる、わからないと感じることも実際に行かなければ感じる事が出来ない。そのため最初に、芸術祭に行くための動機付けを、次に芸術家が表現をし、言葉で補いつつ、見る人が何かを感じる事ができるようなやり取りが大事である。そしてそのような場所を提供することが、公的なイベントの一番大きな役割なのではないか。</p> <p>また、市長はクリテリウム等の発言は多いが、芸術祭の発言は少ない。市長の心が動いていないからではないだろうか。市長の心が芸術祭に寄るようにして欲しい。</p>
委員	<p>ディレクターの件について今回は遠山さんがディレクターである。遠山さんがディレクターになって一番生かされている部分は何か。ディレクターの変更によって前回と変化した部分はあるか。</p>
事務局	<p>芹沢さんは前回のトリエンナーレのディレクターで、アーティスト筋である一方で建築が専門でもある。芸術はソフト面で都市化を行うもの、街づくりをおこなうものというコンセプトで、「未来の発見！」というテーマを設定した。本市の国際芸術祭は継続して行うことを前提としているので、コンセプトと柱はしっかり持ちつつ、今回は違う基軸を打ち出すことを目的とし、遠山さんを選んでいる。遠山さんは映像のプロフェッショナルであるので、我々が普段見ている風景を違う視点で見せる事ができる。また、それを再現するためのプロジェクトの展開を考えている。</p>
委員長	<p>次の説明に移る。</p>
事務局	<p>&lt;さいたま市文化芸術都市創造計画平成29年度施策集について&gt;</p> <p>・資料2、資料3に基づき説明</p>
委員	<p>施策集について、平成29年度はいつからいつまでなのか。</p>
事務局	<p>平成29年4月1日から平成30年の3月末までで、この間に行</p>

	<p>われた事業について実績等を掲載したものである。</p>
委員	<p>ということは、この施策集は1年以上前ということで、平成30年7月にまとめていて、そこから半年以上経って報告している。そもそも今回は平成30年度の第1回意見交換会なのか、平成31年度なのかどちらなのか。</p>
事務局	<p>今は平成30年度である。</p>
委員	<p>30年度の第1回なのか。これは半年前のものであるので、上手く意見を反映できるようなタイミングで報告して欲しい。また、岩槻人形博物館については、素晴らしいと思う。一度行ってみたいと思うが、飲食のスペースは持たないのか。</p>
事務局	<p>小さい施設ではあるがカフェとミュージアムショップを用意している。</p>
委員	<p>滞留時間がどれくらいなのかが気になっている。これだけのスペースであれば30分か。</p>
事務局	<p>そのとおりだ。盆栽美術館の展示面積とほぼ同じくらいであるので、見るとなると30分である。なるべく滞留させるような展示の方法も考えているが、施設の構造的にはそのぐらいになると思う。</p>
委員	<p>観光ということになると、人形博物館、城跡等がうまく絡めばいいと思うが。</p>
事務局	<p>まず文化の拠点施設について人形博物館、隣ににぎわい交流館いわつきができる。交流館では岩槻に関する体験や、地元ならではの体験ができればと思う。</p>
事務局	<p>(図面を見て) この部分がにぎわい交流館である。</p>
事務局	<p>さらに、岩槻にどのように人を集めるのかということについて、人形文化をキーとしたアイデンティティを作るということで、</p>

	<p>人形文化サポーターズという NPO があるが、日本で初めて五節句のイベントを開催すると伺っている。商店街との連携や勉強会を通じて、地元の方が人形の町に住んでいるという実感を持てるように、機運醸成を図っていきたいと思っている。岩槻の話だが、できればさいたま市にも他の拠点があるので、その拠点とどのように密接な連携を図ることができるかについて意見をいただきたい。</p>
委員長	<p>カフェはどこにあるか。</p>
事務局	<p>(図面をみて) カフェは黄色い部分、エントランスの右側。小さいけれども、大きなものであると人件費が発生するので、経営を考えた結果である。プラザノースにもカフェがあるが、それと比べて少し小さいくらいである。</p>
委員	<p>プラザノースのカフェスペースは広く見えるが、かなり限られており、10 人も入らない程である。</p>
事務局	<p>プラザノースのカフェよりも少し狭いスペースである。</p>
委員	<p>カフェで購入した飲み物を持って歩いては駄目なのか。</p>
事務局	<p>エントランスホールのロビーは解放しているので、持ち込み可。会議室横にはガラスの窓がある。右手には中庭もあるので見ていただければ。</p>
委員長	<p>他に意見はあるか。</p>
委員	<p>岩槻の人形を飾るのか。</p>
事務局	<p>基本的には岩槻の人形に限らず、日本の人形を飾る。常設展示室には岩槻人形を飾る。技術を伝える。日本で初めての公立の人形に特化した博物館であるので、人形文化がどのように形成されたか等、人形全般を常設展示室 2 に飾る。日本の人形文化を発信する施設が岩槻にあるという考え方である。</p>

委員	一番人を集められる人形はフィギュアであると思っている。フィギュアの展開の可能性はあるのか。
事務局	確かに、現在最も勢いがある人形はフィギュアである。ただフィギュアの作家をどのように評価していくのかは非常に難しいところである。作家自身が人形の作家ではないという問題もある。他にも、彫刻も人形なのかということ等様々な議論がある。微妙なものをどのように発信していくかを考えなければならないが、フィギュアの展示は検討したいと考えている。
委員	例えばフィギュアと日本の伝統人形を対決させ、どちらが勝つかという展示はすごく新鮮で面白いと思う。もしやればインスタ映えするような施設になるのではないか。
事務局	節句人形というカテゴリーにこだわらず、人形文化とはどのようなものなのか、幅広い視点で捉えられると思っている。当然、土偶、埴輪、フィギュア、玩具、美術、工芸といった様々なカテゴリーがあるので、幅広く発信できればと思う。
委員	時間が許されるのであれば、開設前に博物館の中を見学出来ないか。
事務局	是非機会を設けたい。時期については検討する。7月くらいなら開設準備会も予定している。
事務局	これから内装、展示製作を進めていく。工事の関係で見えない箇所がでてくるので、その点については調整する必要がある。
事務局	実際の現場製作の時期は秋。7月くらいが空いているかもしれない。
委員	施設の外観は皆見られるが、やはり中を見たい。
事務局	(外部の人には)展示ケース等をまだお見せしたことがない。
事務局	バックヤードも含めて案内する。収蔵庫等も、どのような配置



	<p>なのか、物の流れや人の流れなども含めて。修復室もあるので一通り説明する。</p>
委員	<p>委員は芸術について興味を持っているので、皆それぞれ施設に行くと思うが、まとまって行った方がよい。</p>
事務局	<p>調整させていただく。</p>
委員	<p>私も現地に行くのは大賛成。机上で写真を見るだけではわからない。盆栽美術館に関わっているが、色々思うことがある。</p>
事務局	<p>早めの時期に調整できればと思う。</p>
委員	<p>お願いします。</p>
委員	<p>入館料について、例えば一般で300円と記載されているが、どのような基準で設けているのか。</p>
事務局	<p>大宮盆栽美術館の観覧料と同じである。盆栽美術館の場合、全国の博物館、美術館に確認して観覧料を設定している。埼玉県内の常設展で一番値段が高い施設が、埼玉県立の歴史と民族の博物館で300円、県外では東京国立博物館の常設展が600円である。東博で600円なので、なかなかそれ以上の金額は取れないだろうと考えている。ただ、企画展の場合は上限を設けて金額を決めることも可能である。他の施設の金額を見ると、公立の博物館であればこれくらいの額が妥当であると考えている。博物館法では原則無料であるが、その中で金額を設定するのであれば約300円ではないかと考えており、総合的な観点で値段を設定している。色々な意見があると思う。</p>
委員	<p>直営であるため300円であるが、民間の場合、300円は妥当でない。安ければ人は来るが、少し安いのではないのかと思う。</p>
委員	<p>同意見である。例えば200円上げて500円にするのはどうか。500円が今の常識ではないか。安ければいい時代ではない。500円に入れないということはないと思う。大雑把な見方ではある</p>

委員	<p>が、皆さんはどう思うか。</p> <p>私は盆栽美術館に関係しているが、入館料については世界から見た場合にどういうものなのかという視点も重要と考える。盆栽においては、管理運営費、研究費がかかる。海外を見ても、国内を見ても入館料は最低限 500 円程度でないと妥当な額とはいえないのではないか。値段が安いということは、自ら付加価値を下げているようなものである。適正化を行政がしていかなないと、民間にも浸透していかない。</p> <p>国の法律以外でも地域の文化を高めるための政策が必要である。</p> <p>盆栽美術館には 70、80 ヶ国の人があるから、地域の文化を高めるためにも国内と海外の両方の視点から見ないといけない。議会にもこの会議の意見を伝えて実行して欲しい。</p>
委員	<p>岩槻人形のマークについて、一般の人が使用したいときはどのようにすればいいか決まっているのか。</p>
事務局	<p>ロゴマークについては市が著作権を所有している。申請を受けて、使用目的や理由が適切な場合には許可をする。人形の図柄とその横の「岩槻人形博物館」という文字がセットになってロゴマークとしている。</p>
委員	<p>それはどなたがデザインしているのか。</p>
事務局	<p>デザイン会社である。</p>
委員	<p>コンセプトの説明は何かあるか。</p>
事務局	<p>人形のかわいらしさ、優しさを表現している。人形の横顔を表している。ただ伝統的なイメージだけでなく、ポップな感じも取り入れている。どうしても人型であると難しいのでうまく正円の中に表現したと考えている。</p>
委員長	<p>よろしいか。</p>

委員長	次の説明に移る。
事務局	<p>&lt;文化芸術の創造拠点の設置について&gt;</p> <p>・資料4に基づき説明</p>
委員長	何か意見はあるか。資料の7, 8ページに課題や方向性が載っている。
委員	来年にオリンピック・パラリンピックがあるが、大宮区役所跡地について、現在の区役所内の構造を見ると、絵を飾ることに適していないのでは。市のイメージを高めるためにどのようなアイデアを持っているか。
事務局	さいたま国際芸術祭を開催する際にどのようにするかということか。
委員	そのとおりだ。
事務局	<p>国際芸術祭における活用といった視点から申し上げる。</p> <p>アーティストの選定と共に、作品を置くレイアウトを考えている。確かに大宮区役所は使い勝手が悪い。事務局が撤退し、空の状態になった後、必要に応じて壁面の装飾や、段差の解消を考えており、作品が上手く収まるように設計する。1階のエントランスから入り、続いて地下に進んでもらう。その後エレベーターで上に登り、順番に降りてもらうような順序を一つの考え方として検討している。あくまでも国際芸術祭にとっての活用方法である。区役所自体はそもそも区役所のために建設されたものであり、芸術祭終了後、どのように活用していくのかは土地を含めて市で検討する。</p>
委員長	よろしいか。
委員	まだ1年ほど余裕がある。多くの人が、さいたま市がどのような事業を行っていくのかという点に注目しており、期待感を持っている。次は事業名が芸術祭ということで、多くの人が期待している。さいたま市の各分野の専門家を委員に入れた方がよ

	いのではないか。
委員長	他にはあるか。
委員	資料3ページについて、大宮と浦和の2つを拠点とするのか、それともどちらかにするのか、考えを聞きたい。
事務局	御指摘のとおり、旧市の時代に建てられた施設が多いため、資料のような位置関係になっている。拠点について、今は、最も大きなホールを持つ文化センターを文化の拠点として位置付けている。確かに拠点を1つ置くという考え方もあるが、市の人口が130万人を超えており、果たして拠点は1つで良いのかどうかと考えている。今回、老朽化した市民会館おおみやが移転、市民会館うらわも移転する方向であり、移転後にこれらの施設を拠点として位置づけ、各施設それぞれに違う機能を持たせるといった考えもある。逆に同じ機能を持たせるといった考えもある。ご意見いただければと思う。
委員	拠点作りは非常に大切である。さいたまスーパーアリーナには文化施設もあるため、オリンピック・パラリンピックを見据えて、活用できるのではないか。
委員	同じく賛成である。さいたまスーパーアリーナはフィギュアスケート等、国際大会を開いており、何万人もの人が来場し、かつ多くの人を知っている施設であるので、国際芸術祭等、国際がつく事業をやるなら活用すべき。
委員	さいたまスーパーアリーナはどこが運営しているのか。
事務局	埼玉県が所有し、県などが出資する株式会社が運営している。
委員長	皆の意見を聞いていると、来年や再来年といった近い将来を見据えているように思える。 20年、30年といった長い視点で考えて欲しい。
委員	拠点は簡単に出来るものではない。京都も1年でできた訳では

	<p>ない。先人が少しずつ変えて今がある。 先程の岩槻人形博物館の入館料についても、何となくではなく、マーケティングによるデータや、市民の声に基づき、市民がいくらであれば来てくれるのかを考えた方が良い。</p>
委員長	他にはあるか。
委員	<p>1つの物を作る場合、未来を見据えた方が良い。 子ども達や、新しくさいたま市に来て、住んでいる人達に対し、市が大事にしているものや魅力を上手く伝えて、興味を持ってもらうことが必要。出前事業を子ども達のために開いた方が良いのでは。</p>
委員長	(出前事業については)施策集に載っている。
委員	確かに開催していると記載はあるが、ただ参加するだけでは意味が無い。参加して、興味を持ってもらうこと、リピーターになってもらうことが大事である。
事務局	とても大事なことだと思う。市ではアウトリーチ等で、プロの演奏家を学校に派遣したり、体験型事業を展開したりはしている。しかし、PR 不足であることは確かに感じており、反省すべき点だと思う。これから施設を作る際、子ども達にとって敷居が高くなく、かつ面白いと感じる事業を開催すべきであると思う。
委員長	申し訳ないが、時間の都合でここまでとさせてもらう。

(7) その他

事務局より事務連絡

7 閉会

さいたま市スポーツ文化局文化部文化振興課

電話 8 2 9 - 1 2 2 6

Fax 8 2 9 - 1 9 9 6